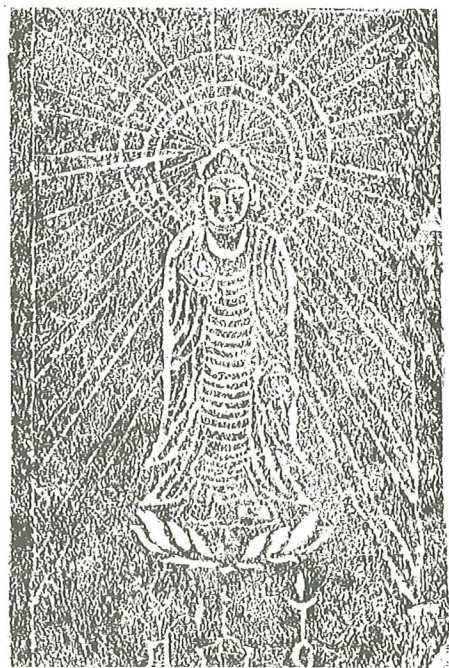


かたりべ 10

豊島区立郷土資料館だより



金剛院画像板碑（部分）

中世の残照ざんしょう

これは、長崎金剛院の境内におまつりしてある「板碑いたび」です。今から五〇〇年以上も前に、区内に住んでいた中世の人々が建てた供養塔です。阿弥陀様の画像の彫られている右側の板碑は、三郎太郎・助三郎たち六人が、念仏講を開いた記念に力をあわせて作りました。どちらも、昭和の初めに付近の土の中から掘り出されたもので、風化や破損も少なく、中世の姿を今に伝えてくれています。

なぜ埋められてしまったのか？なぜ二つが全く同じ大きさなのか？などいまだ解き明かされぬ中世の不思議でいっぱい입니다。カラーで見せできないのが残念ですが、秩父長瀬産の青石という石材が使われています。憂愁を漂わせた深い青緑色です。豊島の人々の心をとらえた味わい深い色の中に、中世の人々の世界をしのんでみて下さい。区内には、金剛院のものも含め合わせて三二基の板碑が残されています。秋の一日、「中世の残照」をたずねて、区内の歴史散索にお出かけになられてはいかがでしょう。

◎当時の食料事情の悪さに驚きました。外地に軍人にて過ごして居りましたので全く知りませんでした。
(要町 80男)

◎非核都市宣言をきめた豊島区としては大できと思ひ、努力を感謝します。
(北大塚 75男)

◎吉原さん、神尾さんの日記、お手紙を読んで涙しました。声高に叫ばれる反戦より、心に深くしみ入ります。
(練馬区 71男)

◎学童疎開の生徒達の生活を見て、昔を思い胸がしめつけられる思いである。
(池袋 70男)

◎子供や孫達にはどんな事があってもあの苦しみ哀しみにあわせてならないと決意を新たにしました。
(南長崎 66男)

◎自分は兵役に服していた(自分達だけが苦労していると思っていた)。銃後でも子供迄苦労していたのがよくわかった。国民すべてが苦労して得たものは何か、戦争のむなしさを今更感じる。
(板橋区 65男)

◎子供の側から疎開を考えてみたいという意図がよくでてきます。日記や手紙、よく集められて、敬意を表します。資料集となって一枚一枚読める日を期待します。
(目黒区 62男)

◎戦争体験を風化させないためにも、区としてもうこうした資料の発掘・保存・広報に力を入れて欲しいと思います。
(千早町 55男)

◎何時も良い企画を立て資料を多く収集されているのに感心している。
(西池袋 55男)

◎夏休みの宿題なのでしょいか、資料を写していた女の子が涙ぐみながら書いていたのが印象に残りました。
(千早町 55女)

◎戦争の最大の被害者は子供達であった事を、何時迄も語り継ぎたいと思う。学寮の部屋はよく当時の事を思い出される良いアイデアだと思う。
(川崎市 54男)



若い方々が熱心に見て下さいました

◎長い間資料を保存された方々に頭が下がる。これほど区として力を入れていることにもびっくりした。
(保谷市 54女)

◎甘ずっぱいものがのどまであふれて感想を書き得ません。
(南長崎 53男)

◎今回は二回目の参観、でも子供達の手紙等を見てみると胸がいっぱいになります。私も学童疎開をした年代の一人です。
(西池袋 53女)

◎悲しくもつらい体験だけに今の子供にこの苦しみを与えてはならない。ただ、この展示会を子供に見せて、父母の体験を見せたり話すことは意義のあることと思う。
(東池袋 53男)

◎自治体の機関としてよくとりくまれたものと思います。
(東久留米市 51男)

◎この企画が区でされたことは有意義なことと賛意を表します。長期の計画でより進められる様子、期待致します。
(清瀬市 50女)

◎良い企画です。風化させぬよう、今後もしつこく続けて下さい。
(要町 46男)

◎子供に見せたくて来ましたが、私自身も非常に感じる所が多かった。
(北区 42男)

◎子どもが学童期にあり、当時の国民学校の子供たちと親との関係がみにつまされてなりません。手紙類は涙なしに読めません。このような催しはもっと広く知らせ、今の時代の親と子は皆これを見て、おたがいに今の平和を全力で守って行くべきだと思います。
(長野県 42女)

◎戦争が忘れられていく。伝える世代も少なくなっている。平和のために、こういう形で伝えられる企画を今後とも期待する。
(高田 42女)

◎一年間の食べ物の量がだんだん少なくなっていく様子がよくわかります。『すいとん』って何？と子供に聞かれました。今晚にでも母に電話して教えてもらい、夕食にとり入れたいと思います。

(高松 40女)

◎去年、今年と子供と共に見学し、平和について話し合っています。

(文京区 39女)

◎今度は子供をつれて来たいとおもっています。他の展示場でも見た事があるのですが、やはり自分達の今住んでいるところのでき事とおもうと気になりました。

(上池袋 38女)

◎10才の子供と見に来ました。恵まれた今の子供に、少しでも戦争中の子供の様子が判ればと思っています。

(調布市 37女)

◎あえて「反戦」などという事は訴えていないが、戦争の恐ろしさが、ひしひしと伝わってくるように思う。自分達の子供達こんな思いをさせてはならないと深く感じた。

(高松 33女)

◎八月十五日が近づくと戦争の風化が叫ばれますが、身近な視点から陳列されているので興味を持てました。

(西池袋 33男)

◎歴史へと風化される過程で、多くの貴重な史料が失われていこうとしています。地域に根ざした資料館でこそ、身近かなところで、幾多の貴重な文献等を見つけ出す事ができると思います。これからも興味ある展示会を開催して下さい。

(厚木市 32女)

◎涙が出て子供に展示の文を読んであげる事が出来ませんでした。

(西池袋 32女)

◎戦争というと広島・長崎の原爆の悲惨さがよく語られますが、もつと身近な、この今住んでいる街で起こったこと、父や母が経験したことなどはあまり知られていないように思います。そんな中で、こうした地域の中で戦争の体験を語りつこうとする試みはとても身近に感じるし、



200人の熱気で埋まる公開座談会会場

とても大切なことだと思えます。私も一児の母となつてみて、展示の中にある母から子への手紙には胸打たれました。

(目白 29女)

◎戦争を体験した方々は、声を高くして、いえ、小さな声でもいいから、戦争を語って下さい。我々は、そんなことを知っていかなければいけ

ないのだと信じています。

(江戸川区 22男)

◎自分の生まれ育った豊島区、父の生まれ育った豊島区です。一つ一つの小学校の名称や空襲など、生々しく感じました。

(千早町 20女)

◎すみで黒くぬった教科書、はじめて見ました。価値感をくつがえされた瞬間はどんなだったでしょう。戦争と平和の問題は、ほんとうに大きなものだと思います。

(北区 20女)

◎子供達の手紙の数々を読むうち、あまりのあわれさに胸がつぶれる思いだった。小さい特別展ながらとても充実した内容だったと思います。

(八千代市 20女)

◎今まで描いていた子供たちの姿とはまるで違っていた。もつと悲しげで、泣いたりしている方が自然なのではないか。そうはさせなかつた当時の教育がおそろしい。

(練馬区 19女)

◎やっぱり戦争の被害をうけたのは広島や長崎だけじゃないと思う。

(池袋 15女)

◎教科書で、戦争に関した事を、赤線や墨で消している様子が印象的でした。

(港区 14女)

◎こんなことは二度とくり返してはいけないと思う。

(長崎 13男)

◎私は、そかいの子どもが、さびしくてつらいことがわかつたので、これからずっと平和な世の中にしたいです。

(南大塚 12女)

◎私は今5年生なので、もしも私がむかしの5年生だったら、お母さんやお父さんとはなれなければいけません。はなれたら、すつこくさびしいと思います。

(池袋本町 11女)

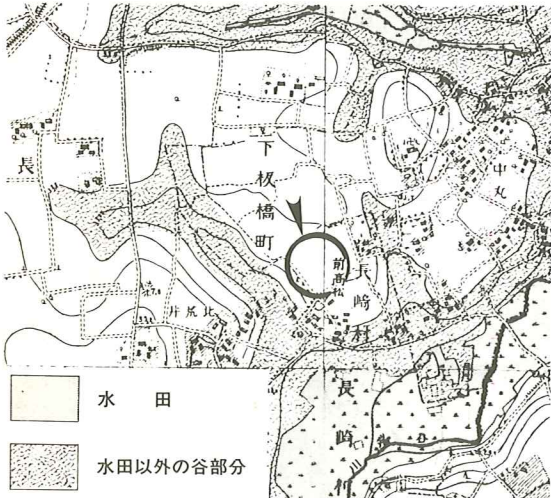
前回、高松三丁目の畑から打製石斧（だせいせきふ）が発見されているのを故三輪善之助さんの記録から知ることができた、ということを紹介しました。「畑」といっても、三輪さんの記録は昭和二十年・二十一年頃の豊島区の様子であり、現在でもその畑が残されているわけではありません。しかし、三輪さんは前回紹介した文章とともに詳細な手書きの地図を残しておいてくれました。この地図に基づいて現在の豊島区の地図を見ますと、三輪さんが石斧を拾った場所は「都営住宅」になっていることがわかります。さらにその南側には区立高松小学校があります。さらにその南側には区立高松小学校があります。さらにその南側には区立高松小学校があります。

周辺の住宅が密集しており、もともとはこの場所がどのような地形であったのかということについて、相当注意をしなければわかりません。そこで、この地域に住宅が密集する以前の状態がわかる地図を見てみましょう。

下の図は、明治四十二年に作られた一万分の一の地形図です。わかりやすいように、水田の部分と、それ以外の「谷」になっている部分にアミをかけておきました。水田は水を引き込みますから、周囲の土地の中でも低い場所に広がっています。つまり、図の白い部分が高い台地になっているわけです。この地図のおおよそ中央部分に黒い丸印を付けておきました。この場

所が、ほぼ現在の高松三丁目の一角にあたり、三輪さんが石斧を拾ったのはこのあたりだったと思われます。

さて、この丸印の場所は、谷端川に面する小さな舌状（ぜつじょう）台地の上になります。舌状台地とは、その左右にも小さな谷が入りこんでいるために、あたかも「舌」のような形をしている台地のことを言います。図を見ればわかるとおり、確かに遺跡のある台地の左右（東西）に小さな谷が入っています。このうちの西（左）側の谷には、小さな川が流れていたとのことです。現在は暗渠になっており、高松小学校の南側の道路がその位置にあたり、人間が生活する場所を選ぶ時には、必ず自分



高松三丁目遺跡の位置（明治42年の地図）

に必要な条件を満たす所をさがします。まず最初に「水」があること……これは生きるためには欠かせない条件です。「日当たりがよい」ことも大切です。また見晴らしが良いこと……これは、自分の身を守る上でも、また食糧確保（狩りの対象となる動物を見つかる）の上でも大切です。すぐ横に「水場」となる川または泉がある舌状台地は、そうしたいくつかの条件を満たす絶好の場所だったと思われる、とりわけ縄文時代の人が好んで生活の場所を選んでいくわけですから、わたしたちは、このような場所を「遺跡（いせき）」と呼んでいます。そして、三輪さんが石斧を拾った場所はそうした舌状台地の上であり、「遺跡があつておかしくない場所」ということとなります。こうして、三輪さんの記録に残されていた遺跡は、現在の地名を取って「高松三丁目遺跡」と呼ぶことになりました。

ところで、三輪さんの拾った石斧は、縄文時代の中期と呼ばれる時期のものであると考えられますが、それは今からおおよそ四千五百年程前にあたります。

かたりべ

No.10

1987年10月9日
発行

豊島区立郷土資料館

豊島区西池袋2-37-4

電話03-980-2351